ちょっと立ち止まって (2)

桑原 茂夫

8 左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図は①どくろを描いた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見るか遠くから見るかによって、全く違う絵として受け取られるのである。

(中略)

10 私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、②他の見方を試してみてはどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見のおどろきや喜びを味わうことができるだろう。

(8・10は教科書本文における形式段落番号を表します)

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「どくろを描いた絵に変わってしまう」とあるが、どのようにするとどくろを描いた絵に変わるのか。適当なものを選びなさい。

ア 化粧台の前に座っている女性の絵が見えるようにする。
イ 一つの絵が別の絵をかくしもつようにする。
ウ 化粧台の前に座っている女性の絵を、目を遠ざけて見る。
エ 同じ図を、近くから見るように見方を変えてみる。

〔　　〕

(2) 「化粧台の前に座っている女性の絵」は、何を述べるための事例か。適当なものを選びなさい。

ア 同じ図でも、見るときの距離によって、違うものとして受け取られることがあること。
イ 絵を鑑賞(かんしょう)するときは、近くから見るのではなく、目を遠ざけて見るべきだということ。
ウ 一見、化粧台の前に座っている女性の絵に見えるが、それは誤った見方だということ。
エ 絵画は常にもう一つの絵をかくしもっているので、注意して鑑賞すべきだということ。

〔　　〕

(3) ――線②「他の見方」とあるが、他の見方の例として10段落で挙げられているものを二つ選びなさい。

ア 一面のみを捉(とら)えてみる。
イ 中心に見るものを変えてみる。
ウ 見るときの距離を変えてみる。
エ 見るものを他のものに変えてみる。

〔　・　〕

(4) 10段落の内容に合うものを、二つ選びなさい。

ア 人は、ひと目見たときの印象に縛られる傾向(けいこう)がある。
イ 見方を変えると、新しい発見の驚(おどろ)きや喜びを味わえる。
ウ 他の見方を試すと、その物の全てを知ることができる。
エ 物を見るときは、立ち止まり距離を変えずに見るべきである。

〔　・　〕